

障害者の入浴考える

特養で支援取り組み（草津）

重度の肢体不自由と知的障害が重複した状態の重症心身障害者の入浴支援について考えるフォーラムが12日、草津市笠山7丁目の県長寿社会福祉センターであった。

入浴支援をしている「^{えにし}滋賀の緑創造実践センター」が主催。重い障害のある子供の在宅医療をしている医師が、家族の介護負担が大きいことを説明。気管切開孔に水が入ってしまうことがあることや、重い障害があると骨折や脱臼をしやすいことなどに触れ、「入浴させてあげたくても、家族にとって一仕事になっている」と話した。

同センターでは、高齢者福祉施設をつかった障害

者の入浴支援に取り組んでいる。この日のフォーラムには、利用者の母親土田裕美子さんと、事業に協力している特別養護老人ホーム「カーサ月の輪」の日比晴久施設長らも登壇した。土田さんは「外で色々な人に触れ合いながら入浴することが、社会経験を増やすことにつながっている」。日比さんは「特別養護老人ホームは看護師がいて設備も充実している。イベントに障害者が参加するなどして、地域に居場所をつくることもできるのではないか」と話した。

（朝日新聞・滋賀版 2017年3月13日）